

研究員 の眼

国内の新興市場株ファンドが健闘 ～2017年1月の投信動向～

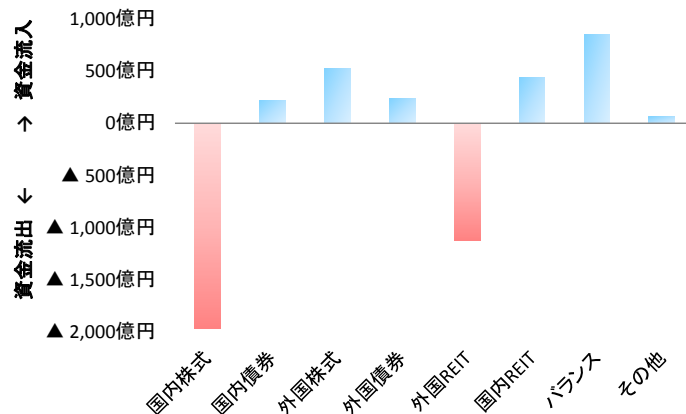
金融研究部 研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

2014年にNISA（少額投資非課税制度）がスタートし、さらに2017年1月から個人型確定拠出年金（iDeCo:イデコ）の加入対象者が拡大するなど、個人の資産形成をサポートする制度が充実してきている。資産形成では制度活用と合わせて、どのように資産運用するかも重要になってきている。個人の資産運用を考える上で、少額から始められ毎月積立も容易な投資信託が強い味方になると思われる。そこで、これから資産形成を考えている方、既に始められている方向けに役立つと思われる投資信託の情報を、資金の動きやパフォーマンスのデータなどを中心に定期的に紹介していく。

国内株式と外国REITの資金流出が目立つ

2017年1月の国内公募追加投信（ETFを除く）の資金の流出入の推計値を見ると、国内株式と外国REITの資金流出が大きかった【図表1】。国内株式は日経225のパッシブ・ファンドを中心に資金流出しており、4日の大発会以降の上値の重い展開の中で解約する投資家が多かったことが分かる。外国REITについては、昨年に純資産が大きいファンドの分配金の引き下げの影響などから、1月も引き続き流出傾向が続いたようだ。

【図表1】2017年1月の国内追加型投信の推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者集計。
各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類わけしています。

根強い人気の毎月分配型

個別でファンドの資金流入を見ると、資金流入上位 10 ファンドのうち 8 ファンドが毎月分配型となっており、引き続き人気の高さがうかがえる。外国 REIT の解約が増える中、国内 REIT、高配当株、ハイ・イールド債券、新興国通貨・債券といった分配金が期待できる資産に資金がシフトしているようだ。

3 位には AI（人工知能）に関連するファンドが入った。今月、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントや三菱 UFJ 国際投信が AI を投資戦略に組み込んだファンド設定するなど、投資テーマとして AI が引き続き注目されると思われる。

日本の中小型株とブラジル株式のファンドのパフォーマンスが良好

1 月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、「JPM ジャパン・テクノロジー・ファンド」が最も高い収益率を上げていた【図表 3】。また「日興グローイング・ベンチャーファンド（3 位）」、「SBI 小型成長ファンド ジェイクルール（4 位）」、「小型株ファンド（6 位）」も良好だった。

この 4 つは国内新興市場の株式を中心に投資しているファンドである。1 月の国内株式全体では、株価がほぼ横ばいだった。国内の大型銘柄は外部環境に左右され上値が重かった中、中小型銘柄の銘柄選別がうまく出来れば高いリターンをあげられたことが分かる。過去 1 年の収益率をみても、この 4 ファンドは市場全体よりも高いパフォーマンスを上げていた。

【図表 2】 2017 年 1 月の推計純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	1月の推計純流入	純資産 1月末時点
1位	LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセットマネジメント	531 億円	3554 億円
2位	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	155 億円	2955 億円
3位	グローバルAIファンド	三井住友アセットマネジメント	145 億円	2491 億円
4位	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) ブラジルリアルコース	アセットマネジメントOne	142 億円	909 億円
5位	DWS ロシア・ルーブル債券投信(毎月分配型)	ドイチェ・アセット・マネジメント	138 億円	310 億円
6位	みずほUSハイイールドオープン Bコース(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	124 億円	1179 億円
7位	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	116 億円	2484 億円
8位	野村インド株投資	野村アセットマネジメント	115 億円	2197 億円
9位	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	フィデリティ投信	115 億円	8790 億円
10位	ニッセイグローバル好配当株式プラス(毎月決算型)	ニッセイアセットマネジメント	114 億円	846 億円

(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用ファンドは除く

【図表 3】 2017 年 1 月の高パフォーマンス・ランキング

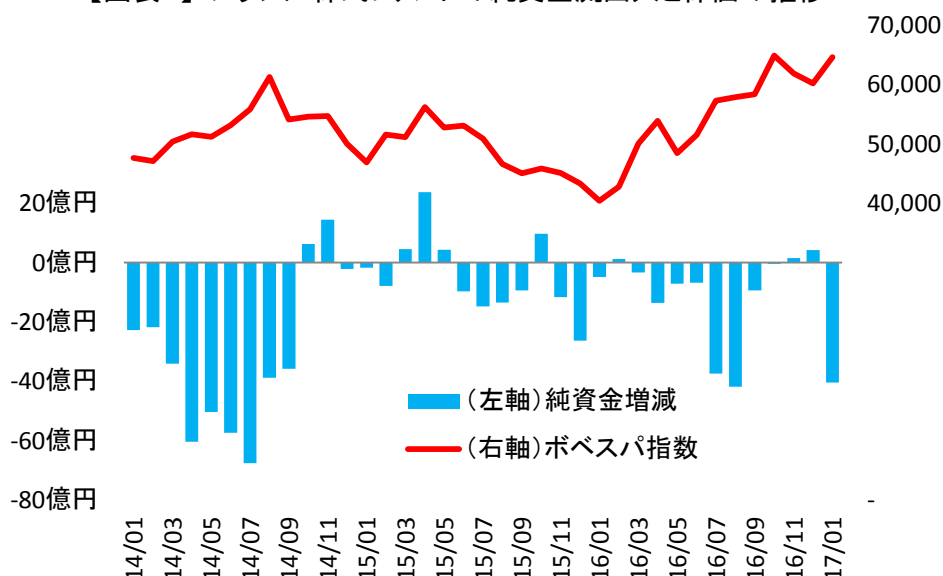
順位	ファンド名	運用会社	1月の収益率	過去1年 収益率
1位	JPM ジャパン・テクノロジー・ファンド	JPモルガン・アセット・マネジメント	17.7 %	71.0 %
2位	ダイワ・ブラジル株式ファンド	大和証券投資信託委託	9.5 %	93.4 %
3位	日興グローイング・ベンチャーファンド	日興アセットマネジメント	9.1 %	35.3 %
4位	SBI 小型成長株ファンド ジェイクルール	SBIアセットマネジメント	9.0 %	34.2 %
5位	HSBC インド・インフラ株式オープン	HSBC 投信	9.0 %	17.6 %
6位	小型株ファンド	明治安田アセットマネジメント	9.0 %	32.6 %
7位	ブラデスコ ブラジル株式オープン	三菱UFJ国際投信	8.8 %	88.6 %
8位	LM・ブラジル高配当株ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	8.5 %	67.0 %
9位	UBS ブラジル・インデックス・ファンド	UBSアセット・マネジメント	8.5 %	97.3 %
10位	ブラジル株式ファンド	日興アセットマネジメント	8.4 %	90.3 %

(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。月末残高 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

また、鉄鉱石価格の上昇などを好感してブラジル株式が大きく上昇したため、ブラジル株式に投資しているファンドのパフォーマンスも総じて良好だった。ただし、ブラジル株式ファンドの資金動向を見ると、この1月は解約が大きくなっていった。ブラジル株式ファンドを保有していた投資家の中に、足元の上昇が長く続かないと考えている方がいたのかもしれない。または、1年間の収益率が90%を超えるファンドもあり、利益を確定するため解約する方が多かったことが推測される。

ブラジル株式ファンドについては、過去3年の純資金流入と株価の推移を見ても、先月のように株価が上昇した月は解約が多くなっていった【図表4】。つまり、ブラジル株式の株価が上昇すると、利益確定の売りが入る傾向があるといえる。投資信託はそもそも短期的な価格の上げ下げに応じて売買するには不向きな商品である。特に、ブラジル株式ファンドの中には（購入時に必要な）買付手数料が高いものが含まれており、短期間の売買は手数料が余計にかかる可能性もあるため、なおのこと短期売買には向かない。基準価格の短期的な上げ下げに一喜一憂しない、長期的な資産形成を意識して投資信託を活用した方がよいのではなかろうか。

【図表4】ブラジル株式ファンドの純資金流入と株価の推移



(資料) Morningstar Direct などを用いて筆者作成。2017年1月のみ推計値
イボットソン分類の「外国株式・ブラジル型」の純資金流入(償還済みファンド含む)

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。